

教材研究ができる喜びを感じて ～教育実習残り4日～

土曜日に初めて附中祭に参加しました。以前附属小にお世話になっているときは何ったことがなかったので、内心とても楽しみに参観させていただきました。テーマは「it's 笑time!」。生徒の皆さんに「やらされている」感じが全くなく、自然体の中にもエネルギーが溢れるような様子がとても印象的でした。

そして日曜日。よい天気でしたね。久しぶりにまとまった時間がとれたので、少し長めに走ることにしました。風も心地よく、最初は1km6分程度で走っていましたが、体調がよくなったのか5km過ぎからは5分30秒ほどで気持ちよく走ることができました。水分補給をしたり、栄養補給をしたりしながら後半は少しゆっくりと走ることにしました。それでも15km付近(約90分)になると、しっかり両足に痛みを感じて、「(止めたい!）」となり、ここから自分との戦いになるわけです……。

教育実習も後半に入り、明日からは研究授業が始まります。先ほど、研究授業の指導案集を実習担当の先生方が校長室にわざわざ提出しに来てくれました。研究授業前日の午後5時に全員の指導案が揃うことも本当に素晴らしいことだと思います。教生の先生方にとっては、2回目の実践授業が研究授業になるわけで、ここまでの準備は相当大変だったことと思います。どうか明日の授業では、目の前の子どもたちと教材を通してしっかり向き合い、子どもたちと一緒に学ぶ気持ちで授業をして欲しいものです。

さて、私たちの仕事で一番大切なことは教材研究です。でも現場にいと、本当は一番やらなければいけない教材研究が、他の仕事のためにどうしても最後の仕事になってしまいがちです。これは学校が組織体であり、教材研究は「個人の仕事」になりがちで、「他の全校にかかわる仕事」や「学年の仕事」の次になっていることに原因があるように思います。また生徒指導への対応など「緊急を要する仕事」が入るとその仕事が優先されます。

私たち教師にとって教材研究をしている時間は苦しいけど幸せな時間です。それは「どうしたら子どもたちに分かるように教えられるだろう」「どうしたらあの子どもができるようになるだろう」などと教材を前に、「わかった」「できた」という子どもたちの笑顔を思い浮かべることができるからです。

そして、ここに、**私たちが目指す附小働き方改革のヒント**があるのではないのでしょうか。

教育実習が終わると来週は「早期退庁週間」。その間、6年生の市小体、4年生の泉ヶ岳合宿と続きます。9月になって、一気に学校が動き出し、子どもたちの笑顔も今まで以上に見られるようになってきたように思います。教育実習残り4日。107名全員が無事最終日を迎えることを願っています。

(文責：副校長 手代木)